

P/T/A

142号

発行●社団法人岩手県PTA連合会
盛岡市みたけ三丁目38-20 ☎641-6444
印刷・山口北州印刷(株)
盛岡市青山四丁目10-5 ☎641-0585

いわて

主な内容

- ・平成24年度第1回通常総会開催…………… 2
- ・平成24年度役員紹介 …………… 3
- ・平成24年度事業計画及び予算の確定 …… 4
- ・広報コンクール審査結果…………… 4
- ・第40回県PTA研究大会紫波大会 ……… 5
- ・共済事業・PTA賠償責任保険 ……… 5
- ・日中友好「少年少女の翼」
参加者の感想…………… 6
- ・提言「大事なことは身体で学ぶ」 ……… 7
- ・特色あるPTA紹介 …………… 8

共につながりあうPTAを目指して



奥州市立江刺第一中学校 PTA

活動
目標

すこやかに育て いわてっ子

E-Mail : pta@iwate-pta.or.jp

URL : <http://www.iwate-pta.or.jp>

平成24年度 第1回通常総会開催される

新会長に 金谷 茂 氏

(盛岡・厨川小P)



平成24年度の第1回通常総会が6月10日(日)13時からサンセール盛岡で開催され、正会員である県内33市町村より出席19名、委任状0名、書面表決書提出14名の出席を得て、平成23年度事業・決算報告やその他の案件審議がなされた。

米澤慎悦会長は

挨拶で「子どもたちを取り巻く様々な問題を解決するため、親同士が集い、情報を共有し、学校や地域と連携をとり、信頼関係を強くすることが重要。今年度は一般社団法人への移行、共済事業の開始と新たな第一歩を踏み出す年になる。災害支援も情報を収集し、各方面と連携を取りながら引き続き行っていくことが大切である。私たちPTA役員がしっかりとしたいの思いを持ち、子どもたちの笑顔づくりのためリーダーシップを発揮することが求められている。」と述べ、24年度の活動方針並びに事業見通しを述べた。

続いて岩手県教育委員会菅野洋樹教育長、岩手県市町村教育委員会協議会川村登会長、岩手県教職員組合豊巻浩也中央執行委員長が

ら祝辞を頂いた。議事では議長に久慈市PTA連合会会長の野場秀輝氏を選出し、第1号議案平成23年度事業報告、第2号議案23年度収支決算が承認された後、第3号議案平成24年度役員選出に関する件が館澤良光役員選考委員長の報告どおりに決定された。なお平成24年度事業計画並びに予算は、3月の通常総会において承認されている。

平成23年度決算のあらまし

I 事業活動収支の部		単位:円
1. 事業活動収入		
基本財産運用収入	750,000	
特定資産運用収入	341,561	
世帯割会費収入(90円)	7,436,610	
児童生徒数割会費収入(800円)	75,634,400	
補助金等収入	0	
寄付金収入	0	
雑収入	91,662	
事業活動収入計	84,254,233	
2. 事業活動支出		
事業費支出	96,376,540	
管理費支出	8,333,647	
他会計への繰入金支出	0	
事業活動支出計	104,710,187	
事業活動収支差額	△20,455,954	
II 投資活動収支の部		
1. 投資活動収入		
特定資産取崩収入	32,835,266	
投資活動収入計	32,835,266	
2. 投資活動支出		
基本財産取得支出	0	
特定資産取得支出	20,842,382	
固定資産取得支出	0	
投資活動支出計	20,842,382	
投資活動収支差額	11,992,884	
III 財務活動収支の部		
財務活動収入計	0	
財務活動支出計	0	
財務活動収支差額	0	
当期収支差額	△8,463,070	
前期繰越収支差額	100,630,609	
次期繰越収支差額	92,167,539	

(注) 収支予算書は公益法人会計における3区分の様式により作成
※詳細は単位PTA事務局に送付してある平成24年度第1回通常総会議案書をご参照ください。

子どもたちが心豊かに育つ環境づくり



岩手県PTA連合会
会長 金谷 茂

今でも夢であつてほしいと思うような震災から一年以上が経ちました。復興元年として様々な取り組みが求められておりますが、しかしいまだ復興計画を示すことのできない被災地も多く、子どもたちの生活環境や、学習環境の改善が進まないことに心を痛めています。一日も早い復興を切に願いますとともに、被災地支援を通して会員の皆さんに深く感謝申し上げます。

今、社会規範の低下による信じがたい事件や事故が子どもたちの身の回りに溢れています。ネットから発信される様々な有害情報も子どもたちの心身に与える影響は計り知れず、さらにはいじ

めや、コミュニケーション不足によるトラブルにどのように立ち向かっていくのか、まさに親の力が試される時ではないでしょうか。家庭の教育力向上に向け、親と子の信頼関係をどのように高めていくのかも、大きな課題です。この現状を打開するためには、私たち親同士がまず顔を合わせ、話し、コミュニケーションを取り、学校、地域としっかり連携し、それぞれの役割を確認しあいながら、子どもたちが夢や希望を持って心豊かに育つ環境を創っていくことが大切だと考えています。

今年度、一般社団法人として生まれ変わり、未来を創造する新たな岩手県PTA連合会として、「教育の原点は家庭にあり、子どもの教育の土台は家庭教育にある」という言葉をしっかりと念頭に置き、家庭、学校、地域、行政や関係団体との連携を深め、今年度の事業を推進してまいります。

平成24年度 役員紹介

会長（一名）



金谷 茂氏
（新任）

- 盛岡ブロック
- 盛岡市P連顧問
- 厨川小PTA会長

副会長（七名）



北野澤純一氏
（新任）

- 第一ブロック・久慈地区
- 久慈地区P連会長
- 種市中PTA会長



川村 清氏
（新任）

- 盛岡ブロック
- 盛岡市P連副会長
- 杜陵小父母と教師の会会長



井上 勝巳氏
（新任）

- 第二ブロック・岩手地区
- 岩手地区P連会長

- 一本木小PTA会長



嶽間澤健一郎氏
（再任）

- 第三ブロック・和賀地区
- 北上市P連顧問
- 東陵中PTA



千葉 弘之氏
（再任）

- 第四ブロック・一関地区
- 藤沢中PTA



上山 靖氏
（新任）

- 第五ブロック・宮古地区
- 宮古地区P連副会長
- 田野畑中PTA会長



鈴木 祐子氏
（再任）

- 県母親委員会委員長
- 上田中PTA会長

理事（十二名）

- 真下 栄一氏（新任）

- 第一ブロック・二戸地区
- 九戸中PTA会長

- 荒木田和美氏（新任）

- 第二ブロック・紫波地区
- 赤石小PTA会長

- 衣更着 潤氏（新任）

- 第三ブロック・花巻地区
- 大迫中PTA会長

- 佐藤 猛氏（新任）

- 第三ブロック・胆江地区
- 江刺第一中PTA会長

- 千葉 祐一氏（新任）

- 第四ブロック・一関地区
- 滝沢小PTA会長

- 志田 満氏（新任）

- 第四ブロック・気仙地区
- 赤崎中PTA会長

- 大森 勝美氏（新任）

- 第五ブロック・上閉伊地区
- 吉里吉里中PTA会長

- 小野 國彦氏（新任）

- 岩手県小学校長会
- 仙北小学校長

- 高橋 清之氏（新任）

- 岩手県中学校長会
- 巻堀中学校長

- 佐々木一成氏（再任）

- 岩手県小中学校副校長会
- 北厨川小学校副校長

- 豊巻 浩也氏（再任）

- 岩手県教職員組合
- 中央執行委員長

- 小森 資司氏（再任）

- 岩手県P連事務局長
- 常務理事

監事（六名）

- 阿部 誠氏（新任）

- 第一ブロック・二戸地区
- 福岡小PTA会長

- 石亀 賢一氏（新任）

- 盛岡ブロック
- 盛岡市P連監事

- 坂下 真一氏（新任）

- 第二ブロック・紫波地区
- 矢中東小PTA会長

- 高橋 光世氏（新任）

- 第三ブロック・和賀地区
- 沢内中PTA副会長

- 多田 裕一氏（新任）

- 第四ブロック・気仙地区
- 有任中PTA会長

- 馬場 厚生氏（新任）

- 第五ブロック・宮古地区
- 岩泉中PTA会長



平成24年度の 事業計画及び 予算が確定

平成23年度第2回通常総会

平成24年3月10日(土)、サンセール盛岡において平成23年度第2回通常総会が開催された。社団法人である本会は主務官庁への新年度事業等の届出を前年度内に行わなければならないため、事業計画と予算は例年、この時期に開催される総会で審議されている。

総会は定款に定められた正会員34名中、本人出席16名、委任状0名、書面表決書提出18名によって審議が行われた。総会では議長に洋野町PTA連合会の北野澤純一氏が選出され、第1号議案の23年度補正予算、第2号議案24年度事業計画、第3号議案24年度収支予算について審

議が進められ、いずれも満場一致で承認された。

なお本会は現在、一般社団法人への移行認可申請中であり、認可され次第、新たな定款に基づいた運営となることにも関わり、評議員選出を行わないこと、また、両磐地区PTA連絡協議会が一関地方PTA連合会と名称変更される旨の連絡があり、了承された後、定刻に至り閉会した。



平成24年度予算のあらまし

I 事業活動収支の部		単位:円
1. 事業活動収入		
基本財産運用収入	0	
特定資産運用収入	0	
世帯割会費収入(200円)	18,860,000	
共済掛金収入(600円)	64,380,000	
補助金等収入	0	
寄付金収入	0	
雑収入	528,000	
事業活動収入計	83,768,000	
2. 事業活動支出		
事業費支出	71,484,164	
管理費支出	5,459,550	
他会計への繰入金支出	0	
事業活動支出計	76,943,714	
事業活動収支差額	6,824,286	
II 投資活動収支の部		
1. 投資活動収入		
特定資産取崩収入	160,000	
投資活動収入計	160,000	
2. 投資活動支出		
基本財産取得支出	0	
特定資産取得支出	4,556,000	
固定資産取得支出	160,000	
投資活動支出計	4,716,000	
投資活動収支差額	△4,556,000	
III 財務活動収支の部		
財務活動収入計	0	
財務活動支出計	0	
財務活動収支差額	0	
IV 予備費支出		
当期収支差額	1,008,286	
前期繰越収支差額	1,260,000	
前期繰越収支差額	43,000,000	
次期繰越収支差額	44,260,000	

(注) 収支予算書は公益法人会計における3区分の様式により作成
※詳細は単位PTA事務局に送付してある平成24年度第1回通常総会議案書をご参照ください。

平成24年度 岩手県PTA広報紙コンクール 第1次審査会の結果

今年度は、県内31小学校PTA、中学校30PTAの計61PTAからの応募があり、審査の結果、次の作品が入賞しました。入賞作品については、「全国小・中学校PTA広報紙コンクール」に出展されます。



小学校の部

最優秀賞

「ふきのとう」 鱒沢小PTA

優秀賞

「みどり」 緑が丘小PTA

優良賞

「動輪」 江釣子小PTA

優良賞

「ぎんなん」 岩谷堂小PTA

優良賞

「蘭梅」 山目小PTA

中学校の部

最優秀賞

「北陵」 北陵中PTA

優秀賞

「東風(こち)」 一関東中PTA

優良賞

「たかやぐさ」 見前中PTA

「勇躍の丘」 千厩中PTA

講評

《優れていたところ》

- ・ 写真の配置等レイアウトが工夫されている作品が多くみられました。
- ・ タイムリーな話題を特集し、地域の顔が見える記事がみられました。

審査委員

(審査委員長 岩手県教育委員会生涯学習文化課社会教育主事 久保田純子)

- ・ 県教委生涯学習文化課 久保田純子
- ・ 学識経験者 柴田 禮司
- ・ 県小学校長会副会長 小野 國彦
- ・ 県中学校長会常任理事 高橋 清之
- ・ 県PTA連合会会長 金谷 茂
- ・ 県PTA連合会副会長 川村 清

- ・ テーマに沿った連載記事を盛り込み、評価をするなど、深まりのある作品がみられました。
- ・ 問題提起、アドバイス、呼びかけなど、工夫した企画がありました。
- ・ 手作りの雰囲気や伝わる作品がありました。

《今後に期待すること》

- ・ 校報的な作品もありましたので内容のバランスを意識すると良いと思います。
- ・ 年間テーマを決めて連載すると一貫性がある内容になると思います。
- ・ PTA会員の意思形成(組織力を高める)メッセージの掲載があると良いと思います。
- ・ 学校・家庭・地域のパイプ役となる必要もあると思います。

歴史とフールーツの里から次代に伝えたい 美しく豊かな岩手心の心
 ~絆を大切にしたPTA活動~

第40回岩手県PTA研究大会 紫波大会

平成24年9月15日(土)開催

日 程	9:00	9:30	11:30	13:00	13:30	14:00	15:30	16:00
	受付	分科会	昼食移動	アトラクション 紫波総合高校 (郷土芸能部)	全体会	講演会	閉会行事	

会 場

全体会	田園ホール
分科会	第1分科会「組織運営」 (JA パーフルバレス)
	第2分科会「研修活動」 (盛岡 SC ナックスホール)
	第3分科会「健全育成」 (古館公民館ふれあいホール)
	第4分科会「家庭と小学校教育」 (矢巾東小学校)
	第5分科会「家庭と中学校教育」 (矢巾中学校)
	第6分科会「家庭教育セミナー」 (田園ホール)
	第7分科会「特別課題」 (あらえびす記念館)

講師紹介

株式会社八木澤商店社長
 (本社は陸前高田市にあるが、震災により全壊、流失。現在は一関市の営業所で操業)。9代目。
 震災からの会社の再建と復興への取り組みなどを通して、自らの「おもい」をご講話いただく。

記念講演

「地域の財産である子どもたちを
 いかに地元に残すか」 河野 通洋 氏

平成24年4月1日から見舞金給付事業にかわり

共済事業
 がスタート
 してきます

昭和51年6月、岩手県PTA安全互助会は、学校管理下外及びPTA行事中の事故に対して見舞金の給付を目的として発足しました。当時は、民間の損害保険会社に委託した事業でしたが、平成6年度からは、見舞金給付を独自で行う自主運営の見舞金給付事業に移行しました。

平成23年1月のPTA・青少年教育団体共済法の施行に伴い、社団法人岩手県PTA連合会見舞金給付事業は、平成24年1月に岩手県教育委員会から共済事業の認可を受け、平成24年4月より新たに共済事業として運営することとなりました。

共済事業に加入いただいた単位PTAを組織する学校等に在籍する児童・生徒・園児の学校管理下外(PTA行事中含む)、及びPTA会員(保護者・教職員)のPTA行事中における傷害事故や傷害事故による死亡に対してこれまでと同様、学校管理下外の生活並びにPTA活動が安心して

PTA賠償責任 保険について

見舞金給付事業の一部としてこれまで取り扱ってきました「PTA管理者賠償責任保険」は、PTA・青少年教育団体共済法に基づく共済事業では取り扱えないこととなりましたが、平成24年4月1日からは、会費収入の中から保険料を支払い、取次事業としておこなうこととなりました。

したがって、岩手県PTA連合会の会費を徴収していない特別支援学校・幼稚園・私立学校は、PTA賠償責任保険の対象外となります。

平成24年4月1日以降、小学校・中学校において、PTA活動遂行に伴う賠償責任保険の対象となる事故が起こった場合は、損保ジャパンまで連絡してください。

◆平日昼間↓(株)損害保険ジャパン盛岡SC課

平成24年度 共済事業 担当者事務説明会 開催のお知らせ

日時 平成24年8月7日(火) 13時30分~16時00分
 場所 岩手県青少年会館(盛岡市みたけ3-38-20)
 対象 単位PTA共済事業担当者又は教職員の希望者
 持参するもの

- ①平成24年度版「共済事業の手引き」
- ②電卓(共済金計算の演習に使用)
- ③印鑑

参加申し込み 平成24年7月27日(金)までに別途学校(園)長宛送付の「申込書」により、郵便で申し込む。

TEL 019-653-4145
 ◆平日夜間/午後5時から翌日午前9時まで
 土日祝日(12月31日から1月3日を含みます)・24時間↓事故サポートデスク
 フリーダイヤル
 TEL 0120-727-1110
 詳細は、平成24年2月、各単位PTAに配布済の「(株)損害保険ジャパン」作成パンフレット「岩手県PTA連合会/PTA賠償責任保険のご案内」を参照下さい。



友好の絆を 日中友好「少年少女の翼」に参加



二戸市立福岡中学校
阿部 真由子

六日間で学んだこと

私は、日中友好「少年少女の翼」に参加し、たくさんの方々の貴重な体験をすることができました。中国では、実際に水墨画を描いたり、太極拳の体験もしました。とても難しかったけれど、中国の長い歴史や文化を、体で感じることもできました。また、現地の中学生との交流では、同じ年とは思えない完璧な英語に圧倒されました。しかし、ジュエスチャーを使ったり、メモに書いたりすることで、言葉の

壁を乗り越え、楽しく話をすることができました。

一番印象に残った場所は、万里の長城です。急な坂道や階段は大変だったけれど、上からの景色は、まさに絶景でした。市内観光では、故宮、天安門広場、人民大会堂などを訪れました。どの場所の観光でも、勉強になるようなことがたくさんありました。

中国で味わった、本場の中華料理は、日本で食べる中華料理とは全く違い、とても驚きました。食事のとき、日本では水やお茶が出されるのが一般的ですが、中国で出されたのは、炭酸飲料水でした。それも、一つの場所に限られていて、と思いきや、どこのレストランにも炭酸飲料水があり、日本と中国の一般に飲まれる飲料の違いに驚かされました。料理の多さも日本とは違い、皿にどっさり盛り付けられた料理は、みんな食べてもたべきれませんでした。ご飯とスूप

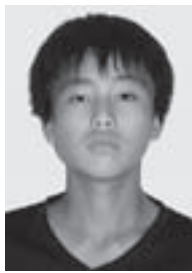


は味が薄く、おかずは味が濃いことで、味のバランスがとれていることも感じました。

この六日間は、あつという間に過ぎていったけれど、とても充実した旅でした。初めは不安で、心配なこともありましたが、けれど、この旅で出会った全国の友達や、リーダーの先生方のおかげで、この旅を、一生に残る思い出にすることができました。

日中友好の旅に関わった、すべての方々に感謝したいです。ありがとうございました。

最高の六日間



盛岡市立北陵中学校
原田 柚希

「少年少女の翼」に参加し、実際に中国の北京に行って文化・言葉の違いをたくさん学び、とてもいい経験をさせてもらいました。

北京の中学校との交流会では、僕たち日本人のことを気遣って英語で話してくれました。話してくれた英語はとても発音が良くペラペラで、中国の中学校のレベルの高さに驚くばかりでした。

またミニゲームやプレゼント交換をして、楽しく交流をすることができました。交流会では言葉が

通じなくても、ジュエスチャーしながら表情豊かに会話をすれば心が通じることを学びました。

市内観光では「鳥の巣」という競技場が一番印象に残っています。外から見ると鳥の巣のようになっているので、穴がたくさんあいてるため「鳥の巣」という名前です。この競技場は北京オリンピックを行ったところで、言葉に表せないくらい大きかったです。ここで

世界一が決まったと思うと鳥肌が立ちました。また、ここに来てみると、大それた立派な競技場でした。

この六日間を一緒に行動した四班。最初はみんな緊張してあまり会話がなく心配になったけれど、時間がたつにつれ、一緒にいて楽しい友達になりました。最後にはみんなで輪になり、一人ひとりがこの六日間の感想と学んだことを話しました。毎日が本当に楽しく、思い出がたくさんできた分、別れる時はとても辛かったです。

しかし、この出会いをたつた六日間で終わりにしないで連絡を取



り合い、また会えると信じてこれからの日々を頑張っていきたいです。

最後になりますが、この経験をこれからの人生に生かしていきたいよう、何度でもこの貴重な時間だった六日間を思い出し、どんな困難も越えていけるように頑張っていきたいです。

第17回家庭教育セミナー開催のお知らせ

テーマ **支え合い つながる喜び 家族の和**

サブテーマ **子どもたちに伝えたい 本当に大切なこと**

《内容》基調講演とパネルディスカッション

	紫波地区セミナー (県PTA研究大会第6分科会)	二戸地区セミナー
開催期日	9月15日(土) 9時30分～	11月10日(土) 13時30分～
会場	矢巾町文化会館「田園ホール」	二戸市民文化会館「中ホール」
基調講演 (依頼予定)	澄川 嘉彦氏 (ハヤチネプロダクション代表)	田口 善政氏 (もりおか啄木・賢治青春館館長)
パネリスト 予定者	漫画家 そのだつくし氏 ・県母親委員長 鈴木祐子氏 ・中央公民館長 高橋セツ子氏	・未来図書館 恒川かおり氏 ・県母親委員長 鈴木祐子氏 ・開催地から

※申込方法 市町村PTA事務局で取りまとめの上、申し込む。

「大事なことは身体で学ぶ」

盛岡市教育研究所専門研究員

篠田 宜道

私は三年前に教員を退職し、現在は非常勤で盛岡市内の先生方のお手伝いをしています。今回、紙面をお借りして、私たち人は大きなことをどのようにして学んできたのか考えてみます。

生活の基本

朝起きて顔を洗うこと。食事前に「いただきます」と声に出すこと。相手と視線を合わせて話すこと。このような行動は人として必要な生活の基本です。朝の「行ってきます」、帰宅時の「ただいま」、「おやすみなさい」、まだまだ挙げることができます。皆様も、何歳頃から言えるようになったのかの明確な記憶はななくとも、自然に口から出るように親御さんに育てられたのです。これらの行動は、その場の状況を読み取り、理解したうえで、本人が意図的に行動を起こすものではありません。日々の生活の中で自然に身についた行動で、習慣とも呼ばれます。この習慣、

特に子ども頃の習慣は、強く残り一生付いて回るといわれます。

近年、人の身体の仕組みが明らかになってきました。習慣は、脳の細胞や神経回路のつくりと関わっていて、行動の反復によって新たな神経回路ができること等がわかってきました。

乳児期の母親との情報のやり取りが、脳や神経回路の発達に関わっていることもわかってきました。乳幼児に長時間テレビを見せること、母親が携帯電話に夢中になって子どもの問いかけに目を見て答えられないことなどが日常的に繰り返されると子供の精神の発達に影響が出かねないと警鐘を鳴らす専門家もいます。運動を継続すると筋肉や骨格が発達して、腕や脚が太くなることは経験で知っています。それに比べて、子供の体内ではその運動に関わる脳や神経系に新しい連携の仕組みが作られるというのです。

何年前か、「人は見た目が九割」という本がベストセラーになりました。著者は本の中で「言葉は七割しか伝えない」と、人と人との関わりにおいて身体言語（身振り手振りや顔の表情等の微妙な身体の動き）が大きな役割を果たしていることを述べています。

小学校に入学したとき、進級して新しい学級になったとき、子どもたちは彼らなりのやり方で交流を図り、新しい人間関係を作ります。大人ほど言葉が発達していない子供同士の交流には身体言語の果たしている役割が大きいことは容易に想像できます。

笑顔での呼びかけ、元気な返事、物を借りるときの話し方、ごみをゴミ箱に入れること、子どもたちは習慣に基づいて行動します。乳幼児期に家庭の中で身についた習慣は、保育園や小学校での友達作りの手掛りとなり、集団生活を送る基礎になります。

学習の基本

学習の基本はいつの時代においても「読み、書き、そろばん」だと思えます。この三つとも「声に出して読む」「漢字を書く」「書いて計算する」のように、何らかの身体の運動を通して学びます。皆さんも小学校低学年のとき

に掛け算の九九を何度も声に出しては練習し、暗記した記憶をお持ちのことと思います。漢字書き取りの苦勞も日本人共通の苦しい思い出でしょう。何度も手や口を動かしたからこそ、記憶に強く残り、大人になっても即座に思い出すことができるのです。

数年前、日本の小中学生の学力が国際比較で低下傾向にあるとのことで、義務教育のあり方が国々でも取り上げられ、教育基本法等の法律の一部が変更されました。教科書も変わりました。「落ちこぼれ」等の詰め込み教育の批判を受けて改訂のたびに薄くなってきた教科書は、皆様のお子様

が現在使用中の教科書から分厚く、ずしりと重くなりました。しかしながら、学ぶ量が増えたことにもろ手を挙げて賛成するわけにはいきません。「身体で学ぶ」ことが軽く扱われるようになると「落ちこぼれ」問題の再燃を招きかねません。歴史は繰り返すと言われますが、繰り返す周期が早すぎるのは考えものです。

二千五百年前に人の道を説き、今でも書店に並ぶ中国の古典、論語は「学びて時にこれを習う。またよるこぼしからずや。」で始まります。「新しいことを知ったならば、それを反復練習して理解を深め自分のものにする

は嬉しいことだ」のような意味です。真に学問を習得するには、学んだだけでなく、反復練習が肝要であるという学びの本質を述べています。

人の身体は、話を一度聞いただけで記憶として定着するようにはなっていない。いつの時代の子どもにも論語にいう「これを習う」場、繰り返し練習する場が必要です。家庭での学習は、この反復練習の場として基礎学力の形成に不可欠な役割を担っています。

人が育つ過程では、人の持つ動物としての特性が強く表に出てきます。科学技術の進歩で生活が便利になり、情報化が進んだ今日でも、子どもの成長には、時間をかけて身体で学ぶ、昔と変わらないステップが必要だと思います。

プロフィール

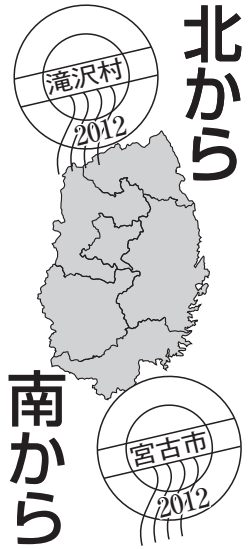


岩手大学卒業。本県中学校教諭に採用され、理科を担当。理科教育の振興に携わり岩手県科学教育連合会の会長を歴

任。平成21年3月退職。

現在は盛岡市教育研究所専門研究員（非常勤）、学級経営や盛岡の先人教育に関わる調査研究を担当。

特色あるPTA



全会員で一致団結

滝沢村立姥屋敷小中学校PTA

姥屋敷小中学校は、小学生児童11名、中学生生徒14名の小中併設校で、保護者PTA会員は16世帯です。しかし、準会員として地域の約60世帯に加入していただいております。多くの地域の方のご支援を受けながら活動をしています。

岩手山を間近に振り仰ぐ雄大な自然の中、子どもたちは勉強や運動に力いっぱい頑張っています。そのがんばりを見守り、支えているのがPTAの活動です。少人数の学校ゆえ、一人一人の子どもの活躍場面が多い反面、保護者や地域の方々で盛り上げている活動が多々あります。

運動会は学区民運動会として行われ、PTA厚生部が運営の中心となって、様々な役割を担います。子どもたち



けでなく、親の出番も沢山あるのが特徴です。

文化祭もPTA教養部が中心となって、バザーや展示に関わります。なんとPTAによる演劇が出し物としてプログラムに盛り込まれているのは、他の学校にはあまり見られないことではない

でしょうか。親たちも仕事を終えて夜に何度も練習会を開くのです。

「卒業を祝う会」では親や地域の方々が集まって幼小中の卒園・卒業を祝います。そのほか夏にはキャンプや登山、冬にはスキーを親子レク

として実施しています。

これらの活動の中で全会員が心を一つにして子どもたちの成長のために汗を流すために集うことは大きな楽しみであり、姥屋敷小中学校PTAの誇りです。

(会長 齋藤芳也)

全ては笑顔と元気のために

宮古市立千鶏小学校PTA

宮古市立千鶏小学校は、昨年3月11日の東日本大震災津波により被災しました。校舎の復旧のめどは未だ立たず、現在は隣の重茂小学校の一部を教室にあてて学習しています。全校19名の子どもたちは約10キロの道のりをバスで登下校しています。学習環境としては十分なものとはいえませんが、子どもたちは元気に学習に励んでいます。

PTA活動も以前のような活動はなかなかできない状況にあります。以前行われていたわかめを収穫する行事は今年も実施は不可能でした。

そんな中、昨年は「親子遠足」を実施しました。遠野市と花巻市を訪れ、ぶどう狩りなどを行い好評を得ました。

今年「小岩井農場」「盛岡手作り村」への遠足を企画し、準備しています。今年にそれに加えて、以前「姉吉キャンプ場」で行っていた「親子キャンプ」を復活させようとしています。「姉吉キャンプ場」は津波により使用不可能ですので、他の施設でのキャンプを企画しています。親子が協力して料理し、キャンプファイヤーを囲む。そんな活動は、きっと子どもたちの忘れられない思い出となることでしょう。

被災した地域のPTAでは、これまでとは違った形の活動を強いられていることは共通していることでしょう。しかし、「全ては子どもたちの笑顔と元気のために」を合



言葉にPTA活動を継続することが、復興への一歩を刻むことと信じています。

(会長 前山一彦)

表紙「写真説明」

奥州市立江刺第一中学校PTAは、江刺第一中学校PTAは、共につながりあうPTAを目指して活動しています。1学期には、2学年PTA主催の校地内の草刈作業を親子で取り組みました。2学期には、PTA研修部主催のカルチャー講座を開催し、陶芸、ヨガ、ピーズ・フラワーアレンジメント、AEDの扱い方に取り組みました。また、江刺区内単位PTA対抗のスポーツ交流会では、親同士が熱いブレインと応援の中でつながりを広げることができました。